



林家  
上小谷  
主屋

登録有形文化財  
地域と共に守り継ぐ

この家は、県道熊本高森線の建設に伴い、曳家をして移築しています。

熊本地震で全壊の判定を受け、この家を残すか悩みましたが、曳家を決断した父や先祖が苦勞して残し、私自身が生まれ育った家なので、残すことを決めました。そして令和4年に、町内初の登録有形



1



2



林富美子さん

文化財として登録されました。

維持管理は大変ですが、地域の皆さんが協力してくれます。息子が定年退職後この家に住む予定なので、息子へ引き継ぐまで、協力してくれる皆さんと共に守っていきたいと思います。



5



4

3

1 自然の形を生かした梁や柱が随所に 2 矢嶋榊子たちが食事をした囲炉裏もそのままに 3 床構え付き座敷には、日の丸や甲冑などが据えられている 4 2階の壁に残る絵や文字 5 土間は板張りにし、ダイニングやギャラリースペースに 6 2階から見下ろした表の間の玄関

林家概要

【建設時期】江戸末期・万延元(1861)年頃

250石取りの藩士が建てた武家住宅。昭和中期に改修、平成元(1989)年に現在の場所へ移築された。屋根は東が入母屋造り、西が寄棟造り。表の間の玄関には式台の痕跡、西上手に上質な床構え付き座敷があり、家格が示されている。

四賢婦人の一人、矢嶋榊子が林七郎と10年間の結婚生活を送った場所としても知られる。県内に家老クラスの武家住宅は残されているが、林家のような一般的な武士の家はほとんど残されていない。町に唯一残る武家住宅としての価値が評価され、国の登録有形文化財(建造物)とされている。

